

寺院でお祈りする

以下にご説明するのは、四国遍路で八十八ヶ所霊場のいずれかを訪れる際に推奨される手順です。ほとんどのお寺は、毎日午前 7 時から午後 5 時まで開いています。また、火災を防ぐため、午後 4 時 30 分以降はろうそくや線香に火をつけないようにしましょう。

正門

正門の前で少し立ち止まり、合掌して一礼します。

お清め

四国八十八ヶ所霊場のすべてにおいて、正門の近くにお清めのための手水鉢があります。まず、柄杓で手水鉢から水をすくい、左手にかけます。次に、柄杓を左手に持ち替え、右手に水をかけます。そして、椀状に丸くした左手に水を注ぎ、それで口をすすいで、排水口に吐き出します。最後に、残りの水が持ち手に流れるよう、柄杓を垂直に持ちます。そうして次の人のためにきれいにしてから、柄杓を手水鉢に戻します。

鐘打ち

巡礼者による鐘打ちを許可しているお寺があり、多くの場合、鐘は入り口付近にあります。鐘打ちは、参拝者が来たことを仏様に知らせるためのものです。鐘は、入場時にのみ打つことが許されます。厄災を引き寄せると考えられているため、去り際に打ってはいけません。

本堂

本堂（または金堂）では、まずろうそくに火をつけ、ろうそく立ての後列に立てます。別のろうそくから点火するのはマナー上良くないとされているため、ライターやマッチを使用してください。次に、線香を数本焚き、指定の箱（納礼箱）に自分の名前を書いた納札を入れます。写経を持っている場合は、それを別の箱（写経箱）に入れます。次はお祈りですが、その前に賽銭箱に寄付金を入れることを検討してください。祈り方はあなた次第です。黙禱を好む巡礼者もいれば、お経を読む人もいます。本堂で唱えられる主な経典は、般若心経、各寺院の御本尊真言、そして光明真言です。数珠を持っている場合は、祈る前後にこすり合わせてください。祈る際は横に少し移動して、他の巡礼者のためにスペースを空けてください。

大師堂

大師堂では、ろうそくへの点火からお祈りまで、本堂と同じ手順を繰り返します。大師堂では、般若心経や光明真言のほか、お遍路の創始者である弘法大師の真言も唱えられます。

寺務所

本堂と大師堂でお祈りしたら寺務所へ行き、納経帳（持っている場合は、掛軸と白衣も）を渡し、印章と墨書きからなる御朱印をいただきましょう。寺務所では、そのお寺の本尊の御影（みえい）をいただくこともできます。

お寺を去る

帰り際に正門をくぐる際、振り返って本堂のほうを向き、合掌して一礼します。